

第1学年 国語科学習指導案

平成26年7月9日（水）第5校時

1 単元名 みんなで よみたいな

教材名 「おおきなかぶ」（光村図書 1年上）

2 単元の目標

- 繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら、音読することができる。
- 場面の様子や登場人物について、想像を広げながら読むことができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・物語を読んで、音読を工夫しようとしている。	・繰り返しやリズムを楽しんで音読している。 ・場面の様子や登場人物の動きを想像し、動作化している。	・だれが何をしたかを理解している。

4 単元について

（1）単元設定の理由

本単元では物語を、想像を広げながら楽しんで読むことをねらいとする。物語の中のリズムカルな繰り返しの部分から、想像を広げる。繰り返しの部分は単純な繰り返しではなく、言葉が微妙に変化する。「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」「とうとう」など微妙に変化した言葉から、次に来る結末を想像したり、おじいさんの気持ちを考えたり、かぶの大きさを想像したりする。繰り返しの部分は、その面白さを味わえるように何度も音読したり、動作化したりしていきたい。

（2）教材文について

栽培することや協力すること、収穫することの喜びにあふれた作品である。人物が次々と変わり、物語が繰り返され、最後には課題を解決するという展開は、昔話や民話の典型である。場面ごとに増える登場人物の様子を動作化することで、登場人物の気持ちや場面の様子を想像することができる教材である。小さな力が合わさって、やがて大きな力となっていく協調・連帯の力強さを主題ととらえた。おじいさんが育てたかぶは、大きなかぶに生長した。おばあさんと呼び、孫と呼び、犬猫、ねずみ呼んで、やっと大きなかぶを抜くことができた。繰り返しの面白さ、みんなの協力が大きな力となっていくこともおさえたい。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

（1）4つの思考の型を取り入れた学習活動

（2）「物語文を読む10の観点」の活用

（3）音読の工夫

- ・多様な音読をさせる。（斉読、一人読み、役割読み、交互読みなど）
- ・動作化し、登場人物の心情を類推させる。
- ・「どういう点が伝わるように読むのか。」を、児童に言わせて読ませる。

(4) 板書・学習環境の工夫

- ・学習を振り返ることができるように掲示する。
- ・具体物や絵を見せ、イメージを広げさせる。

(5) 発問の工夫

- ・児童が叙述から離れた想像を広げないように、焦点化した発問をする。

(6) ワークシートの工夫

- ・一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定する。

6 学習指導計画（全7時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	登場人物や各場面の主な出来事をとらえる。	○心に残ったことを中心に感想を書く。 ○物語の中心人物がおじいさんであること、みんなで力をあわせてかぶを抜くあらすじをおさえる。	【関】物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書こうとしている。 (発表・ワークシート) 【読】物語のあらすじをつかみ、登場人物などをワークにまとめている。 (ワークシート)
2	2	第1場面を読み、“あまいあまい”や“おおきなおおきな”に着目して、おじいさんのかぶを育てる喜び、かぶへの愛情を読み深めることができる。	第一課題「おじいさんのかぶに込めた願いを読み取ろう。」 ★「だれが何をどうする」の文をおさえる。 ★おじいさんのかぶに込めた願いが表れている所に線を引く。(選択) 第二課題「かぶがりっぱにそだってほしいおじいさんの気持ちが一番強くあらわれているところを探そう。」 ★第一課題で線を引いた中から、特におじいさんの気持ちが強く表れていると思うところを丸で囲む。(選択) ・あまいあまい ・おおきなおおきな 【言葉の力】繰り返し表現を使うことで、登場人物の思いを強調できることを知る。	【読】おじいさんのかぶに込めた願いを読み取り、せりふを書いている。 (発表・ワークシート)
	3	第2、3場面を読み、“けれども”に着目して、おじいさんのおおきく育ったかぶに対する喜びの心情を考える。	第一課題「おじいさんの願いどおりあまくおおきく育ったかぶを引っ張る様子を読み取ろう。」 ★どんなかぶに育ったかわかる所に線を引く。【選択】 ★かぶを抜こうとするおじいさんの心情をふきだしに書く。【類推】 第二課題「けれどもぬけないかぶに対するおじいさんの思いは何だろう。」 ★“けれどもかぶはぬけません。”に続くおじいさんのせりふをワークシートに書く。【類推】 【言葉の力】逆接の接続語“けれども”を使うことで、努力に見合わない結果が出たことを表せることを知る。	【読】「けれども」に着目して、おじいさんの心情を考えている。 (発表・ワークシート)

	4 (本時)	第4場面を読み、“それでも”に着目して、おじいさんのおおきく育ったかぶに対する喜びの心情を考える。	第一課題「かぶを引っ張るおじいさんの気持ちは何だろう。」 ★おじいさんがなんと言っておばあさんと呼んだのか考える。【類推】 第二課題「“けれども”と“それでも”のちがいを考えよう。」 ★2つの場面を動作化し、“けれども”と“それでも”の違いを比べる。【比較】 【言葉の力】つなぎ言葉“それでも”を使うことで、努力とは反対の結果が表せることを知る。	【読】「それでも」に着目して、おじいさんの心情を考えている。 (発表・ワークシート)
	5	第5、6、7場面を読み、“まだまだ”“なかなか”に着目して、おじいさんのおおきく育ったかぶに対する喜びの心情を考える。	第一課題「まご、いぬ、ねこを呼んできて、かぶを引っ張る様子を読み取ろう。」 ★まご、いぬ、ねこをなんと言っているのか考える。【類推】 第二課題「おばあさん、まご、いぬ、ねこと引っ張っても抜けないかぶに対するおじいさんの思いは何だろう。」 ★みんなで引っ張ってもぬけないかぶに対するおじいさんのせりふをワークシートに書く。【類推】 【言葉の力】“まだまだ”“なかなか”など、言葉を重ねることで、言葉の意味を強めることを知る。	【読】まご、いぬ、ねこを呼んできてかぶを引っ張る様子を読み取っている。 (発表・ワークシート)
	6	“とうとう”に着目して、おじいさんのかぶが抜けたことに対する喜びの心情を考える。	第一課題「ねずみを呼んできて、かぶを引っ張る様子を読み取ろう。」 ★なんと言っておじいさんのかぶを呼んだのかを考える。【類推】 第二課題「とうとうぬけたかぶに対するおじいさんの気持ちは何だろう。」 ★“とうとうかぶはぬけました。”に続くおじいさんのせりふをワークシートに書く。【類推】 【言葉の力】“とうとう”を使うことで、待ちわびた結果が出たことを表せることを知る。	【読】「とうとう」に着目して、おじいさんの心情を考えている。 (発表・ワークシート)
3	7	音読発表会をする。	音読発表会を開こう。 ★すきな場면을音読する。 ★他の人の発表を聞いて、いいところを見つける。 他の「おおきなかぶ」も見てみよう。 ★訳者や挿絵の違う他の本を紹介する。	【読】場面ごとの情景や心情を読み取って音読している。(発表)

7 本時の指導（4／7）

（1）本時の目標

- ・つなぎ言葉「それでも」に着目して、大きく育ったかぶに対するおじいさんの喜びの心情を考えることができる。

展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1 前時までの学習を振り返る。	・かぶに対して期待をするおじいさんの気持ちを想起させる。	
	2 本時の課題を知る。		
	かぶを引っ張るおじいさんの気持ちは何だろう。（第一課題）		
展開	3 第4場面を音読する。	・大きなかぶが育っていることに対する期待の気持ちをもって、おばあさんと呼ん	
	4 おじいさんがなんと言っておばあさん を呼んだのか考える。【類推】		

	C: おばあさん、おおきなかぶができたぞ。 おおきすぎて、わしにはぬけん。てつだっておくれ。 5 かぶを引っ張るおじいさんの気持ちを考える。 C: はやくかぶを見たい。 わくわくしている。 「けれども」と「それでも」のちがいを考えよう。(第二課題)	だことを強調する。 ・必死に抜こうとする様子や、2人でひっぱっても抜けないかぶについて捉えさせる。	
	T: 第3場面と第4場面の引っ張る様子を比べて違いを見つけてみよう。【比較】 C: 「けれども」と「それでも」 「おじいさん」と「おじいさんとおばあさん」 人数「1人」と「2人」 T: 引っ張る様子をやってみよう。(動作化) 引っ張る様子はどんな違いがあるかな。 力「2人の方が強い。」 声「2人の方が大きい。」 6 「それでも、かぶはぬけません。」に続くおじいさんのセリフをワークシートに書く。 C: まだぬけないか。とてつもなくおおきなかぶにそだっているんだな。 ふたりでもだめか。もっとてつだいがひつようだ。 【言葉の力】 ・「それでも」…前述の文とは、逆のことを述べるつなぎ言葉。	・第4場面の方が、より引っ張る力が強く、より協力している様子を捉えさせる。 ・「それでも」を使うことで、前場面よりも、協力して大きな力でかぶを抜こうとしたけど、抜けなかった様子を強調している。 ・おばあさんと2人で抜こうとした。<u>それでも</u>、抜けなかったかぶ。 →おじいさんの願い通り、もしくは、想像以上に大きなかぶに育っていることを捉えさせる。	【読】つなぎ言葉「それでも」に着目して、おじいさんの心情を考えている。 (ワークシート・発表)
まとめ	7 おじいさんのセリフを加えて、第4場面を読む。 8 本時の学習のふり返りをする。	・「おじいさんの想像以上にかぶは大きそうだ。」ということをおさえ、次時につなげる。	